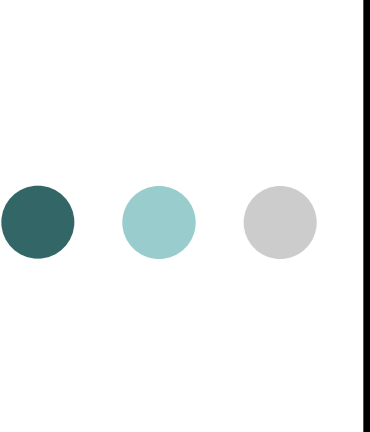
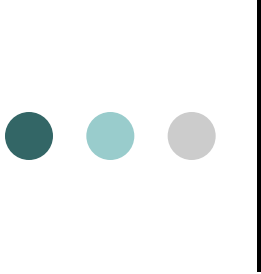




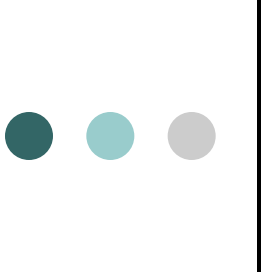
まち・川・海のつながり ～国際ごみ調査の意義～

一般社団法人JEAN 小島あずさ



ICC(国際海岸クリーンアップ)について

- 1986年に米国テキサスでスタート
 - 89年にカナダ、メキシコが参加し、国際化
 - 日本では90年から継続的に参加
 - 毎年同じ時期(9～10月)に同じやり方で
集めたごみの内容を記録し、国際的に集約して
ごみの実態を把握する
- 拾ってきれいに から 調べて出さないために



ICCの成果

- モートンソルト社の塩袋激減
- 6パッキングが生分解性に
- OCのレポートにより、新たな法律や改善プログラムが多数実現

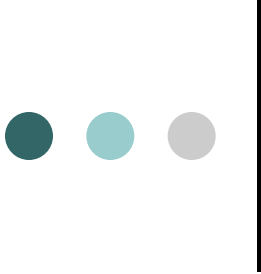
★海洋汚染防止条約の付属書5の採択につながった
→「海洋プラスチック汚染調査・管理法」の制定へ(米国)

カリフォルニアアクションプラン

UNEPの「海ごみ 地球規模のチャレンジ」

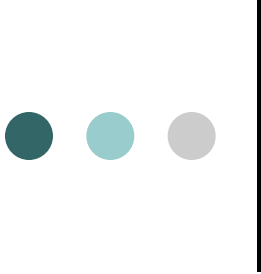
ノースカロライナの行楽釣り対策

EPA の道路側溝歩哨プログラムなど



ICCの成果（日本国内）

- 新たな問題ごみの発見と対策
レジンペレット 漏出防止マニュアル、
注意喚起アンケート等
発泡スチロール製フロート 硬質フロートの開発と
商品化
牡蠣の養殖漁具 広島県漁協による、回収パイ
プの買取
- 政府の海洋ごみ対策を牽引
- 海岸漂着物等処理推進法の制定

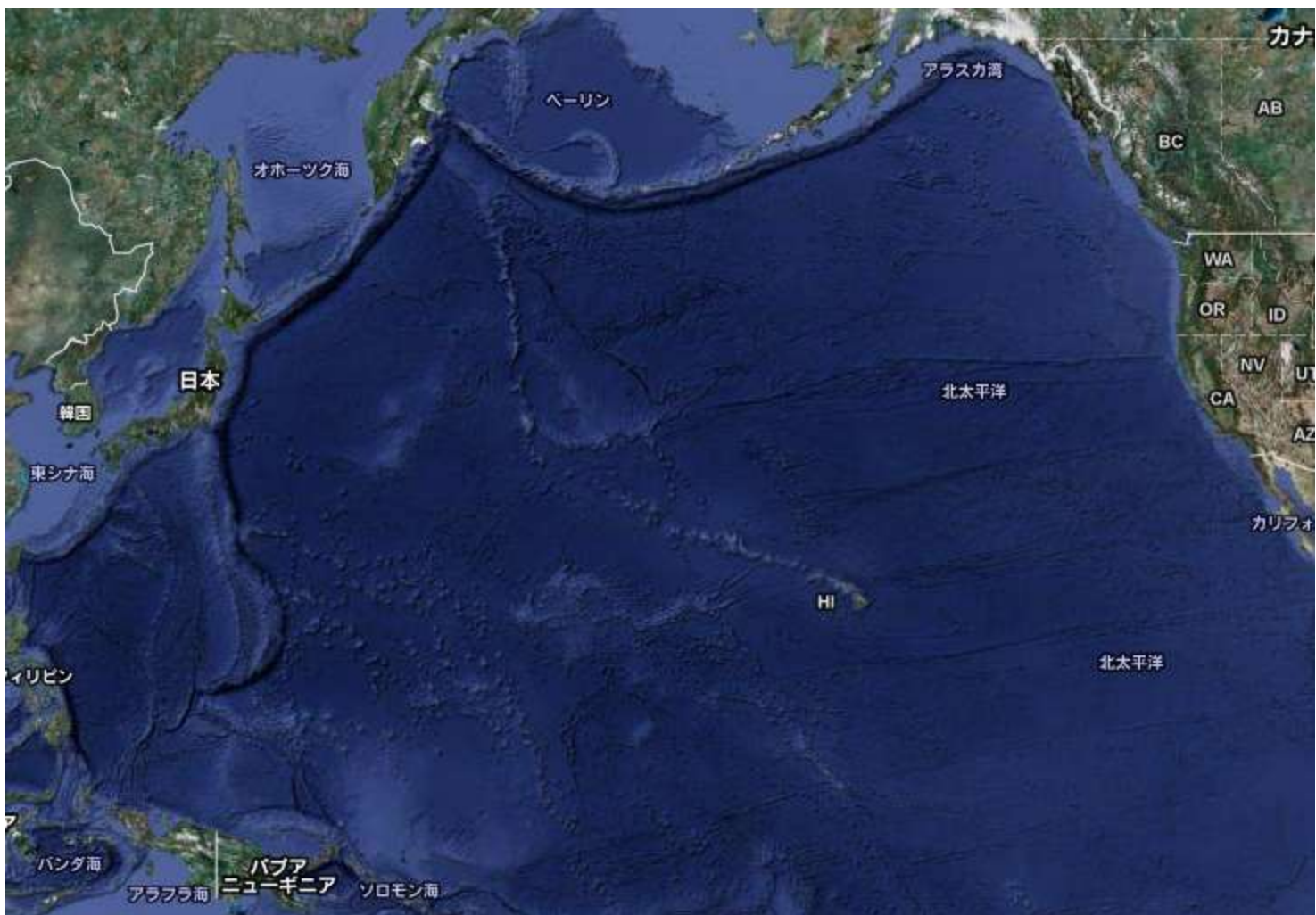


ごみは旅する

- 私たちは、海から何百マイルも内陸に住んでいようと、海べりに住んでいようと、問題の一部分であり、解決の一部分である
- 水辺に堆積するごみは醜いだけではない。
- 危険であり、海洋環境を劣化させ、多くの生物を傷つける。人々の健康にもリスクがあり、有害物質を溶け出させるごみもある。
- 海ごみは清掃から船の修理にいたるまで、1年に10億米ドル以上のコストがかかると推定されている(アジア太平洋経済協力閣僚会議)

日本のごみが北西ハワイへ













ミッドウェイに漂着した日本製品

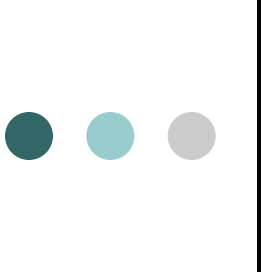






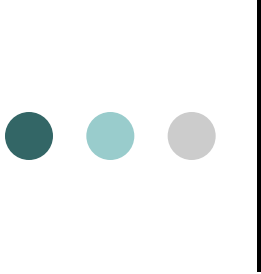
● ● ● | 3月11日、
島の内部に打ちあがった漁網





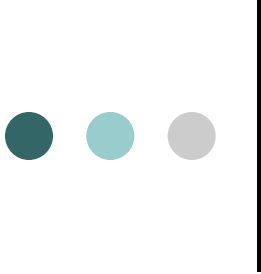
各地からのデータの活用について

- ICC期間中のものは、11月15日までに
米国の主宰団体に報告
(日本の全実施結果は国内レポートに)
- クリーンアップザワールドにも報告
- 会場数が多いため、海域別に整理
- キャプテン等からの意見感想を反映した
実施状況等についてのレポートを添える
→ 翌年初夏に、国際版のレポートが届く



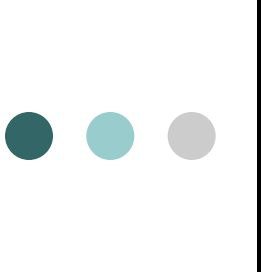
多様な場所での調査が重要

- 海ごみの60～80%が陸から発している
 - 湖沼・川・流れ・雨水管が、風にも助けられてごみを海へ運ぶ
 - 海流と風がその海ごみを運んで世界を回る
- ★ さまざまな場所でのデータを分析することで、発生や移動のメカニズムを知る
- ★ 遠く離れた場所の人たちに「海までつながる問題」であることを理解してもらう
- ★ 上流部での発生抑制は、より効果が高い



データの活用について

- 日本では、国内版のレポートを毎年発行
- 参加団体、支援企業等のほか、国や国際機関にもレポートを提供している
- 共通の調査方法で実施することで、会場ごと、流域ごと、海域別、国別などの比較ができる
- 広域的な課題の抽出ができる
- 比較により、地域の問題点がより具体化できる
- 共通の問題点を見出し、国としての対策を求める



各地の団体等への期待

- 継続的な参加
- 海ごみサミット等での、情報共有
- 地域特性に基づく問題提起
- 特に、発生抑制対策についての具体案を共に考え、実現にむけた動きを